

SBS ホールディングス 株式会社



セキュリティ強化やシステムの効率化、業務生産性向上のため
クライアント仮想化とHPシンククライアントを導入

目的

- セキュリティの強化、消費電力の削減

アプローチ

- Citrix XenDesktop
- HP t5570 シンククライアント 120台

導入の効果

- 快適なレスポンスによる業務効率の向上
- 端末管理の簡便化と運用費用の削減

ビジネスへの効果

- シンククライアントにはデータが保存できないため、情報漏えいのリスクが解消
- 本格稼働から1年と2ヶ月だが障害も無く、維持運用にかかるコストが低減
- 将来的な無線LAN導入と社内モビリティの強化にも柔軟に適用可能

SBSグループは、あらゆる産業に繋がり、経済活動に必要不可欠な社会基盤のひとつである物流を主事業としている。SBSホールディングスは国内外に30社を超える企業群を統括する純粋持ち株会社である。

物流業界では、国内市場が少子高齢化やグローバル化などにより縮小する中、生き残りをかけた競争が激しさを増している。このような環境下で成長を続けるために当グループは、事業、投資、海外の3つの戦略とそれを支えるグループ経営基盤整備を推進して“全方位の物流機能を有する3PL企業集団”を掲げ、その実現をめざしている。

SBSホールディングスは、グループを統括し、戦略の立案、実行の要となるために、ICTを積極的に、効果的に活用することが不可欠となっている。



レスポンス改善による 業務効率の向上

シンククライアントの可能性、利便性については2006年ごろから検討を開始していた。「セキュリティはもちろん、省電力や省スペース、そして耐久性など複数の面から評価していました。」と渋谷氏は振り返る。各社の様々なソリューションを比較する中、狭帯域でも優れたパフォーマンスが出る通信プロトコルICAを利用すれば、社内からのアクセスだけでなく出張先からのフリーアクセスを実現する際にも簡単に導入できる点、また社内でも検証環境を容易に構築可能で十分な事前検証ができたことなどを評価し、2011年11月よりCitrix XenDesktopの本番稼働を始めた。

SBSホールディングスでは上下2階のフロアに渡りシンククライアントを配布、仮想デスクトップはデータセンターに設置してクローズドなネットワークで接続している。仮想化することで、ユーザーに割り当てる仮想メモリやCPUを増やすことができたため、PC利用時よりもレスポンスが大幅に向上しユーザーに好評だ。またシンククライアントはモニターの後ろに背負わせていることから、省スペースにも貢献している。

カスタマイズ性に優れた Windows Embedded Standardが決め手

導入にあたり気を遣ったのが、ユーザーの操作性である。従来のPCからシンククライアント+仮想デスクトップの構成になると、シンククライアントと仮想デスクトップの2つの画面が表示されることになる。これに対し、「起動するとすぐにブラウザが起動し、Citrixのログイン画面が表示されるようにカスタマイズすることで、ユーザーの混乱を避けることができた」と横田氏。またWindowsグループポリシーを使って、仮想デスクトップをログオフ、またはシャットダウンすると、手元のシンククライアントの電源を落とす、という作り込みも実施している。これらのカスタマイズによりユーザーは従来のPC操作と全く変わらず仮想デスクトップを快適に利用できている。

また、USBメモリの利用は原則禁止しているが、緊急にデータのやりとりが必要になった場合は申請ベースで認めているため、完全にUSBが使えないのは困る。「HPのシンククライアントはイメージにWindows Embedded Standardを搭載しており、これらカスタマイズを柔軟に実施することができました。Embedded以外の選択肢は考えられなかった。」とカスタマイズを担当した横田氏。また、導入実績が豊富なこと、導入前



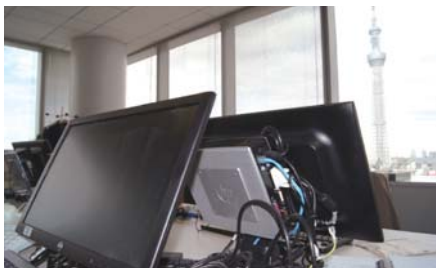
SBSホールディングス株式会社
情報システム部 課長
渋谷 廣一 氏



SBSホールディングス株式会社
情報システム部
横田 大典 氏



シンクライアントをモニターにマウントして利用机の上のスペースを有効活用できている



窓の外に東京スカイツリーが間近に見えるオフィスで活躍するHP t5570 Thin Client

の管理者トレーニング、充実したドキュメントや手厚いサポート等、安心してHPを採用することができた。

HP Device Managerにより運用の簡便化とコスト削減を実現

カスタマイズしたシンクライアントを展開する際、1台1台設定するのではなく、『ThinState Capture』というHPシンクライアントの機能を使って設定していた。

これはUSBメモリにカスタマイズ済みのシンクライアントの設定情報をコピーし、新規端末にコピーできる便利な機能だが、100台に近づく頃からだんだん大変になってきたという。

「USBメモリ、20本くらい持っていました」と苦笑する横田氏だが、現在はネットワーク経由でリ

モートから設定を行うことが可能な『HP Device Manager』を使ってイメージの展開や設定変更などを行なっている。新しいシンクライアントを購入した際は、ネットワーク経由で全ての設定を流し込むことができるため、導入もスムーズだ。これら様々な管理ツールが無償で提供される点も非常に助かっていると好評だ。

国内外問わず積極的にM&Aを展開し、特にアジアでの物流事業の拡大を目指すSBSホールディングス。今回の仮想デスクトップとシンクライアント導入の成功を事例に、適材適所を見極めながらグループ企業が共通で利用できるインフラとしての展開を見据えている。事業の成功には効率的なシステムが欠かせない。これからはHPは先進技術と手厚いサポートで同社の成長を支援していく。

会社概要

社名

SBSホールディングス株式会社

所在地

東京都墨田区太平4丁目1番3号 オリナスタワー

創業

1987年12月16日

代表者

代表取締役社長 鎌田 正彦

資本金

38億円(2012年12月末現在)

売上高

1,279億円(2012年12月末現在、連結)

従業員数

12,644名

(うち正社員4,645名、2012年12月末現在、連結)

事業内容

傘下に物流ならびに物流付帯サービスを行う事業会社24社を抱え、輸配送、倉庫、物流センター運営、流通加工、国際物流、3PL事業など企業向けの総合物流事業を展開する

<http://www.sbs-group.co.jp>

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのシンクライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点に変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2013年3月現在のものです。

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

日本ヒューレット・パカード株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

CDT12775-01

